

## PS-019-1

Clinical N2非小細胞肺癌に対する術前化学放射線療法  
法の検討

高知赤十字病院外科

谷田 信行, 浜口 伸正, 原 真也, 藤島 則明

【目的】Clinical N2非小細胞肺癌に対する術前化学放射線療法の効果を検討する。【方法】2002年1月から2005年12月までに当院内科にて放射線化学療法を行ったStage3期非小細胞肺癌は、28例であった。その中でPRと判定され、手術が施行されたClinical N2症例は、5例であった。化学療法のレジメンは、CBDCA+VNR または CDDP+VDS を2コース行い、45~70Gyの放射線療法を同時併用した。手術は放射線療法終了後、2~6週後に行った。【成績】組織型は、腺癌3例、扁平上皮癌1例、大細胞癌1例であった。化学放射線療法の効果は、全てPRであった。術式は葉切3例、全摘2例で、全て完全切除された。術後合併症は認めなかった。全例にDownstageが得られ、病理学的CRが2例に認められた。無再発生存が3例、再発生存が1例、再発死亡が1例であった。【結論】化学放射線療法の効果が認められた症例に対する肺切除術は、予後を改善した。

## PS-019-3

当科における術前導入化学療法症例の検討

浜松医科大学第一外科

船井 和仁, 鈴木 一也, 高持 一矢, 春藤 恭昌, 数井 暉久

【目的】肺癌診療ガイドラインでは、III期局所進行肺癌に対する術前導入化学療法は、標準治療として行うよう勧めるだけの根拠が明確ではなく、グレードCとされている。しかし、その有効性を示す第III相試験の結果も報告されており、また当然ながらIII期局所進行肺癌に対する手術単独での治療成績は不良であり、術前導入化学療法が探索的治療として行われているのが現状である。今回我々は、当科における術前導入化学療法症例を検討し、その安全性と有効性を検証した。【方法】対象症例は、当科で第三世代抗癌剤を用いた術前導入化学療法を施行した27例。【成績】レジメンは platinum-based doublet が26例、nonplatinum doublet が1例。術前導入化学療法の効果はPR:7例(うち pathological CR:1例), SD:19例, PD:1例で、奏功率は26%、病勢コントロール率は96%であった。術式は全摘8例、二葉切除3例、葉切除13例、審査開胸3例。治療関連死は認めなかった。【結語】当科における術前導入化学療法は安全に施行されており、有効性も acceptable であった。

## PS-019-2

術前化学療法の効果判定方法の検討

栃木県立がんセンター呼吸器外科

松隈 治久, 鈴木 晴子, 石川 義登, 中原 理恵, 宮沢 直人

【背景】術後化学療法がIB-III期では標準治療になりつつあるが、少なからず存在すると考えられる抗癌剤無効症例では無駄な抗癌剤が投与されるといふ欠点がある。個々の患者にとって抗癌剤が有効かを確かめる方法としては術前に少数回の化学療法をおこない、有効であれば術後に追加するという戦略が考えられる。しかしその有効性の評価方法としては術前CTによる評価と切除標本の病理学的評価があるが最も良い評価方法は確立されていない。【方法・対象】1986年から2005年までの切除例のうち術前に化学療法のみが施行された40例を対象とした。6例では術後にも化学療法がおこなわれた。臨床病期はIB-III期。術前画像による評価としては術前化学療法後のCT上の主腫瘍の縮小率により効果判定をおこない、術後の病理学的効果判定基準については肺癌取り扱い規約による組織学的判定基準に基づいて判定した。予後の異なる subgroup を同定できる方法を有効な効果判定方法と考えて検討した。【結果】組織型は Ad:22, Sq:15, その他3。年齢は42歳~74歳(平均59.7歳)。CTによる評価では PR:22, NC:19。病理学的評価としては Ef0-1a:30, Ef1b:5, Ef2:4, Ef3:1。画像上NCであった患者における病理学的効果はEf1b 1例を除いて全例Ef0-1aであり、Ef1b以上のほとんどは画像上PR例であった。画像上NCの5生率は26%、PRでは57%。Ef1b-3の5生率68%、Ef 0-1a:31%であった。画像上PRの患者の中でEf1b以上の症例の5生率は76%でありEf1a以下では42%であった。【結論】術前化学療法の効果判定としては画像上の効果判定を基本とし、病理学的効果判定は画像上PR症例の中でさらに予後良好な症例を抽出できた。

## PS-019-4

術前化学放射線療法 + sleeve lobectomy を施行した症例の検討—安全性と再発形式について

岡山大学医学部腫瘍・胸部外科

平見 有, 田尾 裕之, 山根 正修, 豊岡 伸一, 青江 基, 佐野 由文, 伊達 洋至

【対象】術前化学放射線療法 + sleeve lobectomy を施行した症例(A群7例)と sleeve lobectomy のみ施行した症例(B群19例)。A群は平均年齢61.6歳。扁平上皮癌6例、腺癌1例。臨床病期 IIIA 期5例, IIIB 期2例。術前補助療法はCDDPを含む2剤併用 + 放射線療法(30~66Gy)。全例に腫瘍縮小効果を認め右上葉切除術施行。B群は平均年齢66.6歳。扁平上皮癌16例、腺癌2例、腺扁平上皮癌1例。病理病期 I, II 期13例, IIIA 期4例, IIIB 期2例。術式は右上葉8例, 右下葉2例, 左上葉6例, 左下葉3例。平均観察期間 A群51ヶ月, B群53ヶ月。【結果】気管支吻合部の合併症はA群では認めず, B群では吻合部不全1例, 虚血1例。その他合併症はA群ではS6壊死のため再手術した1例, 心房細動1例。B群では肺癆遷延3例, 創感染3例, 心房細動2例, 反回神経麻痺2例, 肺炎1例。局所再発はともに認めず。遠隔転移はA群では2例あり1例は腺癌で術前CDDP+DOC, RT40Gy 施行, pN0, Ef3の症例で、術後220日目に脳転移, 430日目に対側肺転移を認めた。もう1例は扁平上皮癌で術前CDDP+5-FU, RT30Gy 施行, 術後30Gy 追加照射施行し pN0の症例で術後365日目に腎転移, また十二指腸転移を認めた。B群では肺転移2例, 皮膚転移1例, 胸膜播種1例を認めた。【結論】A群の合併症は7例中2例であり気管支吻合部関連は認めなかった。局所再発は認めず遠隔転移は7例中2例であった。少数の検討ではあるが術前化学放射線療法 + sleeve lobectomy は安全性また根治性からも許容できる術式と考えられる。